



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第445号 2015年10月25日発行

美しい中秋の名月を仰ぎ、ホッとしたとき、金木犀の香りが漂っているのに気づきました。秋だなあ、美しい秋、おいしい秋、さわやかな秋：素敵な感じを喜ぼうとしながら、実はそうでない自分、心が晴れやかにならない自分が少し隠れているのに、気づきました。

何か鬱っぽくなっている自



分がいます。一つのことを片付けると、すぐに次のことの準備をし、それが済めばまた次のことがあって、と順番に進んでいるとそれなりに一つ一つに感謝していくこともできるのですが、重なって同時並行的に進んでいくと、何かいくつものおもりをぶら下げられた感じとなってしまいます。こういう風に愚痴っ

て、ため息をついて、次の重い腰を上げるのです。

そんなわたしに、次の聖書のみ言葉が突き刺さりました。旧約聖書イザヤ書第59章1、2節のみ言葉です。

「主の手が短くて救えないのではない。」

「主の耳が鈍くて聞こえないでもない。」

むしろお前たちの悪が

天高く、恵み多き秋に

司祭 施洗者ヨハネ 山本 眞

神とお前たちの間を隔て

お前たちの罪が神のみ顔を隠させ

お前たちに耳を傾けられるのを妨げているのだ。」

第3イザヤと呼ばれる紀元前500年前後の言葉です。

ペルシャによってバビロンから解放され、意気揚々とエルサレムに帰還したものの、再建は困難を極め、挫折に次ぐ

挫折の中でイスラエルの民はつぶやきます。

「わたしたちは光を望んだが、見よ、闇に閉ざされ輝きを望んだが、暗黒の中を歩いている。」（9節）

神様は何をしておられるのか、そうつぶやく民に対し、

「主は人ひとりいないのを見執り成す人がいないのを驚かれた。」（16節）

とあります。

自分がしなければならぬという事に汲々としてしまっている時、周囲が見えなくなり、神様の御腕の業にも気づかないのです。本当に自分が見なければならぬことも見えていないのです。そして実は、多くの人が一緒にしてくれていて、支えてくれているのに、まるで自分ひとりで

ているかのように「背負い込んで」しまっ、愚痴っっているのです。

支えられていて、また支えていて、「互いにある」ということに気づかされる時、互いへの感謝は、神様からの恵みへの感謝へと高められていきます。

自分にはとてもできない、重すぎるといふボヤキも、みんなが支えてくれている、祈ってくれていると気づかされる時、神様は決してできないことを要求されているわけではない、実は神様が支えてくださっている、という恵みへの感謝へと変えられていきます。

イエス様こそが、すべての重荷を背負い込んでくださったのでした。そしてわたしたちとともに歩んでくださいます。わたしたちも、イエス様の荷をすこしでも分かち持つように、互いに支え、祈り、歩むことができますように。（やまもと まこと・芦屋聖マルコ教会牧師・西宮聖ペテロ教会牧師）

戦後70年の節目に各地で平和礼拝開かれる

広島原爆忌を平和記念聖堂で

司祭 ヤコブ 義平 雅夫

8月5、6日、原爆投下後70年目を迎える広島を訪れた被爆体験者の大屋美代子さんとその孫の山本未来さんのメッセージの後、私はプール学院高校をはじめとする聖公会関係学校の生徒たちが原爆

ドーム周辺で核兵器廃絶のための署名活動を行う様子を見学させていただきました。うだるような暑さの中、汗をかいて署名を集める生徒たちの姿が目には焼き付いています。原爆忌前日の原爆ドーム周辺は、多くの団体、宗教関係者、

地元の人、外国人

人が行き交う中、拡声器でいろいろな主張をする団体があつたりと、

署名活動を終えて集合した聖公会関係学校の生徒・教職員たち



平和記念公園が陽が傾く頃、

ら平和記念聖堂までの約40分の道のりを平和行進し、続いて同聖堂での夕の礼拝に参加しました。WCC(世界教会

長崎の歴史を思い巡らし、平和の同心円を

グレース 山本 史

8月9日の長崎の一日はとても静かに明けました。前日までとは違い、この日はモノトーンの服装がほとんど。早朝からそれぞれの「祈り」の場へ向か一方で路面電車は一杯でした。そこから、多くの

歴史的な出来事を受け止めてきた「長崎」という街の人が「祈る」ことでその出来事を静かに受け入れ、それぞれの信仰のもとに委ねておられるのを感じながら教会へ向かいました。(広島は「記念」、長崎は「祈念」で「きねん」の字が異なり、こうしたところにも歴史的背景を感じます)。

長崎聖三一教会はオランダ坂の真下、旧長崎英国領事館(現在は



藤謙一主教の説教で、全教区の主教臨席のもと聖餐式が献げられ、すべてのプログラムが終了しました。70年目の原爆の日、礼拝堂を出ると、そこにはどこまでも高い空がありました。

(よしひら まさお・大阪聖アンデレ教会牧師、桃山学院中学高等学校チャプレン)

非公開ですが教会のベランダから全体像を見ることが出来ます)に隣接した観光地の中心部に位置し、長崎に観光に来られた全国の聖公会の信徒の方がよく来られるようで、この日も聖職者をはじめ全国からたくさん信徒の方が来られていました。

例年の平和祈念礼拝は先人の思いを感じるために冷房を切って行われていたそうですが、今年は信徒の高齢化を鑑(次頁4段につづく)

敗戦から70年、心からの祈りを

平和礼拝・聖餐式が奈良基督教会で

ヤコブ 小出 裕司

「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは、神の子と呼ばれる。(マタイ5・9)」のみ言葉のもと、大阪教区宣教部礼拝・音楽委員会、京都教区宣教部・礼拝部共催で8月15日(主の母聖マリヤ日)午後2時から奈良基督教会で平和礼拝・聖餐式

「平和を歌う、平和を祈る」が、敗戦から70年の節目に捧げられた。安全保障関連法案が衆議院で強行採決されたこともあり日本の平和に対する危機意識も重なり、出席者は240人と多数になり、準備された礼拝式文が足らなくなる。当日の礼拝式文は、良く



準備されており、特に共同懺悔、代祷では心からの祈りを捧げた。説教者は、奈良基督教会牧師ヨハネ・井田泉司祭で、はじめに主の母聖マリヤ日にあたり聖マリヤの信仰について語られた。また1923年9月1日に発生した関東大震災で、奈良基督教会に逃れて来た立教大学生・張本栄(チンボン)さんを、当時の牧師吉村大次郎司祭が守り、捕まえるな

殺してからにせよと、一喝して守りとおした話をされた。

最近読んだ本で、同じく関東

大震災で朝鮮人、中国人を守った横浜の鶴見警察署長の大川常吉さんのことを知る。これらの人々のように命がけの勇氣を持つてとっさに行動できる人は稀であろうが、良く学び、どこまで出来るか、見習いたい。

最後に井田司祭は、私達一人一人は平和の苗として植えられている。ヘイトスピーチを無くし平和を祈りましょう、と語られた。

礼拝では、パイプオルガンのやさしい音色と聖歌隊の奉仕により、一段と良い雰囲気です。平和礼拝を捧げることが出来ることを感謝します。

なお、当日の信施金16万5772円は沖繩教区を通して、沖繩の平和を守るための活動に捧げられた。(こいで ひろし 大阪聖アンデレ教会信徒)

(前頁よりつづく)
み原爆投下時11時2分に合わせて窓が開放されました。11時2分、教会からほど近い長崎港に停泊中の船の汽笛、大浦天主堂他の鐘が一斉に鳴る中、当時に思いをはせながら黙祷をしました。「平和の同心円」をテーマにした礼拝で

したので、聖壇を含め円に並べられた机とイスに加え、その中心にリースが置かれ、参列者全員が白いバラを祈りと共に献花。「今ここにある」ことへの感謝の思いがあふれてくる礼拝でした。(やまもと ふみ・東豊中聖ミカエル教会信徒)

公 示

救主降生2015年9月13日
日本聖公会大阪教区
教区会議長 主教 アンデレ 磯 晴久

日本聖公会大阪教区第115(定期)教区会を、下記のように招集します。

記

- 会 期 2015年11月23日(月)
午前9時(開会聖餐式)から午後5時
- 議 場 日本聖公会大阪教区主教座聖堂・会館(川口基督教会)
大阪市西区川口1丁目3番8号

上記教区会の書記及び会計に下記の者を指名します。

書 記	司 祭	ジョイ	千松清美
	司 祭	ヨハネ	古澤秀利
会 計	司 祭	ヨシュア	原田光雄
		パウロ	小池義郎

牧会支援委員会主催 講演会

「たましいのケア」

司祭 ヤコブ 義平 雅夫



7月25日(土)午後2時より、大阪聖パウロ教会を会場に表題の講演会が開かれました。講師の窪寺俊之先生(聖学院大学教授)は、現代社会における「成果主義」と、それによって切り刻まれた人間関係、その結果生まれた人間の疎外感、孤独感について解説され、それをもう一度統合する「霊性」(spirituality)という視点を、長年、牧師ま

た病院チャプレンとして「たましいの痛み」に向き合ってきた経験を通してお話してくださいました。

一つのエピソードがあります。最近、大学では「ラーニング・コモンズ」(Learning Commons)という、広いつの部屋の中で、ある人は勉強し、ある人は本を読み、ある人はソファーに座って会話している場があるそうです。そのような「集まりはするが干渉しない」「気配はあるが束縛しない」場で、学生たちは自分の居場所を見つけているそうです。考えてみれば、これは、広く社会の人たちに居場所を提供したいと願う教会にも、ヒントを与えてくれるものではないかと感じました。もちろん比喩的な意味ですが、教会では、神さまに座っていただくための空間を、人と人との間に確保しておく

ことが重要だと思いました。最後に使徒言行録6…1-7が取り上げられましたが、それは、初代教会の信徒——ギリシャ語を話すユダヤ人——のたましいの叫びを代弁するようになされたメッセージで、そこには現代の私たちの教会と同じ問題がすでに存在した

——スコットランドから

「ヒューム神学生を囲む集い」開かれる

司祭 クリストファー 奥村 貴充



ヒューム神学生(右)とご家族

8月30日(日)の午後、川口基督教会で「神学生を囲む集い」が開かれ、133人が参加しました。今回は「どのような内容にすれば教区の皆

ことがわかりました。そのために「霊と知恵に満ちた評判のよい人々」が選ばれて長老と共に役割を担いあったといえます。「霊」は神さまとの関係を指し示します。神さまとの関係を中心に、「み言葉の奉仕」と「愛の奉仕」が車の両輪として実践されていく

教会でありたいという希望が与えられた時でした。講演後は、講師を囲んで茶菓をいただき、楽しい交わりの時が持たれました。(よしひら まさお・牧会支援委員長、大阪聖アンデレ教会牧師、桃山学院中学高等学校チャプレン)

さまにウイリアム・ユーワン・ヒューム神学生のことを知っていただけか」ということで、出身地のスコットランドの紹介、信仰歴、来日した経緯、そして日本での仕事を辞めてウイリアム神学館入学に至るまでの紹介をご本人にしていただきました。結果としては「神学校で何を学んでいるか、また本人の出身地がよく分かった」と好評で、ヒューム神学生の熱意が伝わった内容となりました。また今年に聖書内容クイズをし、その場に居合わせた教役者が前に出て答えるという形式で行いま

した。特に司会者の進め方が良く、盛り上がりには拍手をかけた笑いつながっていったことが印象に残りました。昨年と同じく神学生の司式、主教の説教による夕の礼拝を献げし、みんなが一緒になってヒューム神学生のために祈り支えていくと決意を新たに、また新たな神学生が生まれるよう祈りつつ散会しました。反省すべき点としては、もう少しヒューム神学生の人像を前面に出しても良かったという点、昨年のように神学生本人についてのクイズがあ

(次頁最下段につづく)

シリーズ 聖公会関連施設紹介 ― ⑦



社会福祉法人 聖ヨハネ学園

理事長 サムエル 野知 卓司

聖ヨハネ学園はアメリカ聖公会から派遣されたブルル女史が大坂聖ヨハネ教会を組織された翌年1889年に孤児を育てることに取り組んだのが創立とされています。教会信徒特に婦人たちの献身的な働きがあり、次第に養育する児童の数も増え、場所も変えながら事業が発展しました。戦争末期の1944年に戦火を避けてこの高槻の地に移転しました。戦後の混乱期には戦災孤児の収容所として役割を果たし、次第に児童養護施設に復帰しました。1952年に社会福祉法人として認可されて国の制度の



2015年度新規採用職員との記念写真

もとで事業を行うようになり、

高槻市の要請や地域のニーズに合わせて下田部保育園、聖ヨハネ養育センター、特養ミス・ブルル記念ホームを開設し、また、ゆう・あいセンター、うの花療育園を委託されました。そしてこの数年間で地域生活支援センター光、小規模特養、聖ヨハネ子どもセンターを新しく開設し、現在7施設で児童、高齢者、障がい者の福祉事業を展開しています。今年には多くの制度変更があり社会福祉法人の経営環境が大きく変革しました。特に社会福祉制度の見直しを含む社

(前頁よりつづく)
つてもよかったのではないかといい点、家族の紹介や奥様との馴れ初めを聞きたかったという点が挙げられました。
来年はこうした反省点を踏まえつつ、より実り豊かな集いになるようなプログラムを考えていきたいと思っています。
(おくむら たかみつ・大阪教区神学生後援会理事、聖贖主教会牧師)



洗礼名について考える

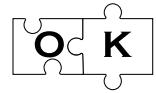
今、日本聖公会には11人の主教がいます。その中で、神戸教区の中村豊主教、東京教区の大畑喜道主教、と私の洗礼名がアンデレです。代祷の時、主教アンデレとお祈りして頂き、感謝と共に、身の引き締まる(もう

少し体が引き締まる(というのですが) 思いがします。と同時に、まことに勝手ですが、神戸や東京でもお祈りして、力をお願いしています。私の洗礼名は、若き日に、親友と一緒に洗礼に与ることとなり、2人で相談して、親友が1か月ほど先に生まれた

ので兄貴でペテロ、私が弟分でアンデレとしたということ、あまり深く考えてのことではありませんでした。受洗後、アンデレに関する聖書箇所を見ると、兄貴のペテロや外国人にイエスを紹介した人として登場します。一人でもいい、周りの人々にイエスを紹介できる人になれたらいいなとずっと思っています。皆さんも自分の洗礼名につ

いて調べてみてはいかがでしょう。洗礼名がない方は、御自分の名前の由来を調べてみてはどうでしょうか。
(主教アンデレ磯 晴久)
※羊年生まれの新主教によるコラムです。カットの紋章は「アンデレ・クロス」で、X形の十字架にかけられたと伝わる使徒聖アンデレを表します。

会福祉法の改正への対応が当面の課題です。地域におけるニーズに対応し公益的な取り組みを自発的に行うことにより、社会福祉法人に求められる役割を果たし、存在価値を示してゆかねばなりません。この法人のバックボーンはキリスト教の基本である愛の精神と日本聖公会信徒の皆さんのお支えであることを肝に銘じて事業を継続してゆきたいと願っています。
(のち たくじ・大阪聖ヨハネ教会信徒)



2015年夏教会奉仕者および聖職への道セミナー

伊藤 良三

大阪・京都両教区聖職養成委員会主催の「教会奉仕者及び聖職への道セミナー」を8月11日から13日までカトリック御受難修道会宝塚黙想の家で開催した。木村幸夫司祭(大阪教区退職司祭)を講師に迎え、「40年をふり返ってみて」「聖職を目指す人達に向けて」「東日本大震災から思う事」



大阪・京都両教区聖職養成委員会主催の「教会奉仕者及び聖職への道セミナー」を8月11日から13日までカトリック御受難修道会宝塚黙想の家で開催した。木村幸夫司祭(大阪教区退職司祭)を講師に迎え、「40年をふり返ってみて」「聖職を目指す人達に向けて」「東日本大震災から思う事」と感じるか、生かされていると感ずるか、しっかりと責任を取れる生き方をしているか。主日ごとの聖餐式の重要性、陪餐に与る事の意味などを話された。定年退職後は京阪神3教区の協働プロジェクトに参画し、小名浜支援センターや近隣教会での主日礼拝のご奉仕、「ほっこりカフェ」等で支援活動をされた。その中で、自分勝手な思いや満足ではなく、いかに現地の人々の側に立って、その思いをくみ取るか、寄り添う事・一緒に歩むことの難しさを話され

た。そして、情報交換の必要性を話され、今必要なことは忘れずいつまでも覚え続け、祈る事であると締めくくられた。次のセッションは「若者に聞く」で、講師は内海理紗子さん(川口基督教会・関西学院大)と吉村和馬さん(京都聖マリア教会・同志社大)。内海さんはクリチャン家庭に生まれ幼少期から教会に行くこと・礼拝に出ることを教えられた。堅信後は子どもの集い(教会学校)に関わり、積極的にサーバーやオルタリーの奉仕に参与した。聖餐式は心を神様

に向け、真剣に向き合う事と考えている。その様な信仰から、今、同世代の青年たちとグループ(大阪教区内)やU26で繋がり、助け合う仲間を作りたい、との表明があった。吉村さんは少年期、難病である筋ジストロフィーを発症し、以降徐々に筋力が衰え、今は車椅子と愛犬を伴い通学している状況を証しされた。発症時の失望感を思う時、今神様に生かされていることが実感出来るとの事。「家族に、仲間、神様に感謝。そして有難う」筋ジスは僕のトロフィーだ」と言える信仰は参加者に大きな感銘を与えた。参加者は部分参加も含め28人であった。

(いとうりょうぞう・大阪教区聖職養成委員長、芦屋聖マルコ教会信徒)



2015年6月大阪聖パウロ教会は創立130周年を迎えました。

大阪聖パウロ教会 創立130周年記念事業のご案内

「お帰りなさい！ウイルソン司祭」

日時：2015年11月29日(日) 午後2時半～5時
場所：大阪聖パウロ教会 礼拝堂 食堂、集会室
内容：1部 ウイルソン ウォーレン司祭の「出会いを語る」
2部 懇親会 軽飲食用意します。(会費は無料です)
申込：参加希望者は、11月22日(日)までに下記へ連絡ください。
連絡：大阪聖パウロ教会 電話 06-6371-0170 / FAX 06-6371-0661 E-mail : osakapaulch2@yahoo.co.jp. 何れかへお願いします。
担当：創立130周年記念事業委員会 実行委員長 岡本 正



このマークの記事は「大阪教区報」と「つのがえ」(京都教区報)の共通記事です。



8月3日から5日に行われた2015年度の小学生キャンプには、42人の小学生が参加してくれました。初日は大雨のスタートでしたが、徐々に日差しが強くなり、快晴の中で残りの日程を過ごすことが出来ました。少し体調を崩す参加者も出ましたが、大きな怪我や病気もなく、楽しみながらキャンプを過ごすことができました。小学生キャンプのスタッフを担った青年たちは5月から毎週集まり、キャンプの準備を進めてきました。



くさる、そのようなキャンプがこれからも続いていきますよう願っています。
(2015年度小学生キャンプスタッフ一同)

一つ一つのプログラムを通して、子どもたちと青年たちの豊かな交わりが生まれていたのではないのでしょうか。楽しいプログラムは、ただ楽しむだけでなくそのプログラムを通して子どもたちに「これを伝えたい」という想いから生まれました。青年たちの想いを通して主が豊かな交わりの場を与えてくださる、子どもたちの成長へと導いて

多くの北こまつでのキャンプの思い出は、1日目はすいえいです。小さい魚をさがしながら泳ぎました。いろんな人と遊んで、楽しかったです。夜、ねるのがきんちようしました。2日目の出来事は、野外よりです。クイズで1問答えてあつていたら、1つ具がもらえるというゲームでした。たまきに合わないやきそばを手に入れてしまいました。おもしろいゲームもしたので、よかったです。あと、その日

にかおるリーダーがかぎをなしたことです。キャンプなのでふべんな所もありました。この3日間、すごく楽しかったです。またらい年も、小学生キャンプにさんかしたいです。

☆ (福井聖三一教会 3年 岡田倫太郎)

一番たのしかったのが、キャンプファイヤーと花火でした。びわこでおよいだことも、とつてもたのしかったです。魚もいました。かいてもおもしろい。ごはんもとつてもおいしかったです。ぼくは、トマトがにがでだけどキャンプでたべたトマトは、おいしかった。

☆ (川口基督教会 4年 中前大知)

☆ (福島聖ステパノ教会 4年 岡田昌也)

このキャンプに来たときはきんちようしていたけど、琵琶湖に入ったときからきんちようしなくなりました。それから、リーダーと遊んだりごはんをたべたり、魚をつかまえたりました。キャンプファイヤーをしました。UFOを見ました。いろいろなゲームをしたのしかったです。

子どもと楽しむコンサート
クリスマスがやってくる

日時 2015年 11月28日(土)
13時30分 (開場13時)

会場 聖贖主教会 礼拝堂

入場無料 靴を入れる袋をご持参ください。

お話 司祭 奥村 貴充
演奏 アンサンブル・ギリビッツオ
(弦・管楽器による室内合奏団)

「みんなで演奏しよう」「みんなで歌おう」
のコーナーもあります

主催 日本聖公会 聖贖主教会
後援 社会福祉法人 博愛社



今回のJ'sキャンプは、テ

マ「True Face」、主題聖句「神に向かつてわたしは声をあげ、助けを求めて叫びます（詩編77・2）」のもとに、中学生12人と高校生7人、スタッフ7人がともに4日間を過ごしました。たくさんの参加者に恵まれてさまざまなワークにも取り組むことができました。そして、テーマにあるような、お互いの素顔に触れることのできたキャンプとなりました。たくさん新しい出会いのあるキャンプをこれからも続けて行きたいと思えます。

（J's部門執事 鈴木 恵一）



「またいつか同じメンバーでキャンプしたい」と言ったことが実現したらいいと思いま

◎

ぼくは初めて夏のJ'sキャンプに参加しました。J'sは2回目で、春には行ったけど、夏は初なので緊張していました。けどみんながいろいろ教えてくれました。そのおかげで楽しい4日間を過ごすことができました。ぼくは3日目のコンプリンの分かち合いで

す。今までのキャンプで一番楽しく充実した4日間のキャンプだったと思います。（西宮聖ペテロ教会 中2 当舎 葵）

◎

小学3年生から教区のキャンプに参加してもう9回目になりました。毎年、夏休みの楽しみはキャンプです。でも来年は受験があつて来られるか分からないから、今年のキャンプにはすごい思い入れがありました。私が中学1年生になってJ'sキャンプに参加したときは、中学生は私一人だけだったのが、今年のキャンプはキャンパー19人という今までにない大人数です。このキャンプはご飯の準備に片付けに、お風呂に移動にと人数が多ければ多いほど大変だったけど、大人数やからこそ楽しめたこともたくさんあったね。ゲーム大会は盛り上がるし、キャンプファイヤーは盛り上がるし、怪獣のパレードは最高に盛り上がるし!!ほんまに良かった。タクシーでキャンプ場まで移動したのには驚いた。前代未聞?!

True Face

執事 フランチェスコ 成岡 宏晃

教区のキャンプでいろんな人に出会って、いろんな事を学んで…。教えてもらったことが今では教える側になって、お兄ちゃんお姉ちゃんに頼っていたのが頼られる側になっ

て…。ひとつで成長してるなって…。自分でも実感できたこのキャンプでした。——またいつかキャンプしようね。（京都復活教会 高2 瀬戸 栄）

今年も、8月10日（月）～13日（木）に三重県明和町のサン大淀キャンプ場で京都・大阪共催で夏のJ'sキャンプを行うことができました。心から感謝申し上げます。

スタッフ参加者総勢26人と、かなりの大所帯でしたがキャンプのテーマである「True Face」と主題聖句である詩編第77編2節を、随所で分かち合う時が与えられ、恵みに包まれた4日間でした。神さまへの叫びは、友達や教会の人にも、家族となることもと言えないようなことがたくさんあるのかもしれない。頭の中では「誰にも言えないようなことを神さまは聞いてくださる」と解っていて

も、なかなか神さまの前で心を開くことができません。でも、だからこそ独りきりで抱え込むのではなく「神さまって、こんなこと聞いてくれるのだろうか」という疑問を分かち合うことから始められるのが、このJ'sキャンプだと改めて感じました。また、今回のキャンプでは祈ることを大切にしました。何も礼拝や改まってする「お祈り」だけに限らず、毎日の生活の中で、自分を知り、友達のことを知り、みんなと一緒に神さまに声を届かせようとするのが大切でした。私たちが一番口にしにくい言葉にこそ、神さまが私たちに示そうとされていることが秘められていると信じて、キャンプでの経験を日々の生活につなげられるようにと願います。（なるおか ひろあき・東豊 中聖ミカエル教会牧師補）



青年有志キャンプ COLOR's CAMP



津田 知

加した事のなかつた人、また、教会に關係していない人とキャンプを通じて教会とそ

2015年8月28日(金)〜29日(土)に、北小松キャンプ場にて、第1回青年有志キャンプを総勢26人で開催しました。青年有志キャンプは、教区キャンプに携わってきた人や教区の行事に参加して、青年と繋がってほしいとの思いから始まりました。キャンプのなかでは自分達の新しいキャンプの名前を決めるディスカッションを行い、「青年有志会キャンプ」から「COLOR's」という名前に決定しました。これに込められた思いは、小学生キャンプのスタッフ・J'sキャンプのスタッフ・過去にキャンプに参加していた青年・教会に通っていた青年・教会と繋がっていなかった人達がそれぞれの個性(COLOR)を失うことなく、今までのキャンプで出会う事が無かった新しい仲間と出会い、いろんな意見を交換し、COLOR'sというキャンプが楽しめる空間であってほしいと思ったからです。参加した青年たちの中で普段スタッフをしている青年は、久しぶりにキャンパーとしてキャンプを楽しめた、学生以来久しぶりにキャンプをしたと言う声がありました。それぞれがまじりまじりキャンパーとしての楽しみを知り、色々な話をキャンプのなかで話すこ

とができただので、とても爽やかな時間になりました。なにより、このキャンプを通して、たくさんの方との繋がりが増えたと感じます。これからもっと新しいメンバーを増やして、このあと青年となる世代にも繋げていけるキャンプになれば...と思っています。教会の皆様お祈り、ご支援本当にありがとうございます。青年活動を通して教会(ミストリー)を挙げておられます。ニューズレターには、磯主教巻頭言のほかに「教区合併が課題として浮上してきた背景」や「合併後の宣教ビジョンについて」、「現在の合併推進委員会における論議」、「すでに始まっている『合併』といった記事が掲載されています。まだお読みでない方はぜひ手にとってみてください。

OK委員会はいま??

大阪教区と京都教区の合併を推進する委員会報告

大阪教区司祭 ヨハネ 古澤 秀利

す。磯主教は京都・大阪の合併で期待されるメリットとして、両教区の人々が共に歩み出すときにプラスアルファの価値や力が生まれること(ケ

皆さんのお手元には10月の第一主日頃届いたと思います。もうお読みになったでしょうか。第3号の巻頭言は4月18日に主教按手を受けた、磯崎久主教(大阪教区第8代主教)で

た。464人が出席して共に礼拝

京都教区では10月12日に合併についての懇談会が開催されました。教区代議員、一般参加者合わせて70人が集まり、OK委員会および常置委員会からの説明や質疑応答などがなされました。今後も理解を深めていただくための周知活動をしていきたいと思います。また、大阪教区では去る10月4日(聖霊降臨後第19主日)に大阪教区礼拝が行われました。

の繋がりを深めていきたいと思えます。これからも青年有志会と、COLOR'sをよろしくお願い致します。(つだ さとる・京都聖マリア教会信徒)

をささげました。そしてとても嬉しいことに京都教区から8人の出席がありました。礼拝後は教区の子どもたちと青年が、キッズフェスティバルやJ'sキャンプ、小学生キャンプの報告・宣伝を行うために「キッズパレード」を行いました。そこにも京都教区の青年の姿がありました。この小さな変化を通して「豊かさ」を実感された方も多かったのではないのでしょうか。両教区の合併がもたらすものには、種々の問題もあるかと思えます。しかし、その問題も含めて私たちのこととして、一緒に悩み考え歩んで行きたいと願っています。(教区礼拝、キッズパレードの様子は大阪教区ホームページでご覧いただけます。)(ふるさわ ひでとし・OK委員会委員、高槻聖マリア教会牧師)

連合男子会 第130回「祈りと証しの会」

大西修主教がユーモアのお話

施洗者ヨハネ 川村 健太



証し人として大西修主教が
信仰の継承について語る

秋の気配漂う9月17日(木)、ほぼ満席となった大阪聖パウロ教会礼拝堂にて、大西修主教より「牧師の子ども」として生まれ育った経験を中心に、軽妙なユーモアを交えてお話しいただきました。まず、信仰はそれ自身が主から与えられた恵みであり、主のご用に召されたことを感謝すべきで、幼児洗礼を受けるのも、自分で洗礼を受けるのも賜物とのことでした。ご自身は、幼稚園・小学生の頃は皆から愛されて育ち、みんな味方という感覚だったが、思春期になるとしばしば「牧師の子どものくせに」と言われることが多くなって、そのことを強く意識するようになって、大学生の頃には経験によって「クリスチャンはくせなければならない」という束縛から解放されたとのことでした。次に祈りについて、祖父(大西狷介主教)の朝食時の代祷がとて長くて嫌だったが、今では知らない所で互いに祈りあうことの素晴らしさがわかったとお話でした。特に、真剣な祈りは、好き嫌いの次元を超えた力を持つので、信仰の証しとして「心から」喜びをもって声に出して祈るべきで、ご自身も新婚初日からご夫妻で実践されたとのこと。最後に、信仰は生活・行動で表す

祈るべきで、ご自身も新婚初日からご夫妻で実践されたとのこと。最後に、信仰は生活・行動で表す



8月15日撮影。参加者の集合写真

今年の日韓青年セミナーは、8月10日～15日に行われ、中朝国境付近でのフィールドワークを中心に、詩人ユン・ドンジュの歩みを辿り、現在の支援活動として北朝鮮への人道支援を行っている聖公会の活動団体TOPICKの活動への理解を深めました。今回、「分断と和解」というテーマでプログラムに参加し、「分断を知らなければ和解には結びつかない」という当たり前のことを痛感しました。

セミナー後半に訪れたある中国料理店では、北朝鮮から働きに来ている女性たちに出会いました。店に到着する前に、彼女たちが国の方針で中国に働きに来ていることや、監視役が同行している、逃亡すれば北朝鮮国内にいる家族が処罰を受けることになるなどの想像を遥かに超える厳しい現状を聞かされていたので、彼女たちの歌と踊りによるシヨーを楽しむ余裕はなく、韓

国に参加者がどのような感情を抱いているかを慮ると、とても複雑な気持ちになりました。4つに分かれたグループセッションでは、韓国の青年が歴史的な背景知識を込めて発言するのに対して、私は表面的な感想しか言うことが出来ませんでした。韓国・朝鮮への関心は強い方だと思っていました。むしろ「関心があるつもり」「知っているつもり」になっている自分に気付いたのです。これは日本からの参加者のほとんどに言えることではないかと思えます。しかしながら、それに気付けたことから和解は始まっています。かやま ゆうき・川口基督教会信徒)

日韓 聖公会 青年セミナー

中国・延吉を訪れて

フランチェスコ 香山 由希

もので、玄関を掃除するなど、教会を大切にすることもその一環であるとのことでした。主教は数年前にご長男を御許に送られましたが、死は悲しみだけではなく、主イエスならどうするか考え、主に問いかける中で、自分を大きく変えられたという話で結ばれました。(かわむら けんた・堺聖テモテ教会信徒)



社会宣教委員会・「同対審」答申50周年の記念集会報告

人権政策と法律を、もっと身近に！

司祭 ペテロ 竹林 徑一

この夏の衆・参両院での「安保法案」の審議・採決をめぐる攻防の様子は、日本住民の我々に「法律」とは何か、将来の暮らし・人生に与える影響などを深く考えさせる大チャンスとなりました。どこかの偉い先生や専門家に任せておいたら大丈夫、なんとかしてくれという「お任せ意識」では、自分の人生も、日本の

民主主義も守れないという危機意識が芽生えつつあるように思います。法律や条例は、いったんできてしまうと、主権者・国民・住民を縛りつけ支配・利用する方向へも、大きな力を発揮するのです。

聖書は、イスラエル民族を神さまの御旨に沿って生かすための「十戒」が、「律法」となって人々の生活をがんじがらめにしたこと、そこから解放を目指した人々やイエス様を死に至らせる大きな罪の源になったことを、繰り返し教えています。そして、「法や掟」と「人権」の緊張関係や軋轢を象徴的に表現しているのが、1922（大正11）年3月3日に京都で採択された「全国水平社宣言・綱領・決議」と「いばらの冠」です。この精神と運動の歴史が底流となつて、1965（昭和40）年8月11日、時の佐藤栄作内閣総理大臣に提出された

のが、「同和対策審議会答申」（略して「同対審」）です。国が日本国憲法に則つて問題解決のために打ち出した、日本の将来に向かっての大指針・人権宣言です。

暑かった今年の夏、8月11日に、大阪・中之島中央公会堂に約1500人が集まり「同対審」答申50周年の記念集会が開催されました【写真参照】。そこで採択した「府民アピール」は、50年の評価と課題を示しています。

「同対審」に基づいて国会決議した「同和対策事業特別措置法」や「地域改善対策特別措置法」等の関連法案も、2002年に法期限切れとなりました。「人権擁護法案」や「人権委員会設置法案」も国会解散で廃案状態のため、ヘイトスピーチ等の新しい問題への対応が難しいのが現状です。大阪人権博物館を、大阪市が廃館しようとする訴訟

まで起こっています。2015年という年は、戦後70年だけでなく、大きな曲がり角・節目の時だといえます。

（たけばやし けいいち・社会宣教委員長、大宗連事務局長、大阪聖ヨハネ教会牧師）

世界の窓

◎ カンタベリー大主教、世界の全首座主教を招集

カンタベリー大主教は37人の全首座主教に、カンタベリーで開催される特別会議への招待状を送付した。この招集の目的は、アングリカン・コミュニオンの将来に関して共に祈ることにある。会議は2016年1月に開催される予定で、首座主教同士が課題とされる問題を話し合い、アングリカン・コミュニオンの構造的見直しを含め、次のランベス会議における方向性を決める良い機会となるだろう。この会議の議題については、全ての首座主教の提案から共通の合意を得て決定されることになる。それらには、宗教的動機による暴力、子どもや社会的弱者の保護、環境、人間の性などの問題が含まれると想定される。ジャスティン・ウェルビー大主教の

メッセージは以下の通りである。「我々は近年生じている事柄だけを考慮に入れるのではなく、共同体としてかつ特に首座主教として、適正に執り行われてきた過去の事柄にも留意することが必要とされている。我々は1998年のランベス会議と、それ以降に開かれた諸々の協議会や首座主教会議の決定を尊重しつつ前進するべきである。そして教会は主イエス・キリストの福音を宣べ伝え、弟子を作り聖なる礼拝と生活を営むという絶対不可欠なものに導かれるというだけではなく、管区同士の間にも外部からの抑圧や社会的変動などによる大きな隔たりがある、という認識の上で前進しなければならぬ。我々はお互い違った文脈の中で生きているのである。我々の社会や文化はお互いに違つたものであり、それと同じように北半球における文化的変

（次頁四段目につづく）

特別寄稿

カナダ日系教会からのアピール

失われた教会

リベカ タツチエル美知子

「バンクーバーの朝日」という映画をご存知でしょうか。戦前バンクーバーで活躍した野球チーム、朝日軍の物語です。私がついていきます聖十字教会は戦前その朝日軍が練習していた野球場のすぐ横にありました。当時もう一つの教会、昇天教会と合わせて約1500人の日系聖公会信徒がおりました。戦争が始まると朝日軍同様、聖公会信徒も西海岸から100マイル奥地にある「キャンプ」に強制移動させられました。この件については、1988年カナダ政府が、当時のカナダ政府の方針は、人種差別であったと認め賠償金を支払いました。これにより、日系カナダ人に対する人種差別問題は全て解決したかのように見えました。

しかしよく調べて見ると、政府には日系の学校や教会を売却する権利が無かったにもかかわらず、私達の先人が苦労して建てた二つの教会をカナダ聖公会が売ってしまったのです。誰が何の目的で売却したのでしょうか。2008年の春、この売却の真実を解き明かそうと、調査グループが結成されました。当時の資料がなかなか手に入らない中、このなぞを解く鍵となったのは土地の登記簿でした。土地売買の記録は登記簿を調べれば一目瞭然です。その結果、昇天教会は1945年7月6日に、聖十字教会は1949年8月19日に教区により売却されていた事が判明しました。ここで注目しなければいけない事は、1949年4月1日には強制移動の条例も破棄され、日系人はバン

クーバーに戻り始めているのです。5月の教区議事録には「日本人宣教の必要無し」という記載があり、聖十字教会は市場価格以下で売却されています。この調査結果を2009年当時の教区主教に相談しましたところ、インガム主教さまは「真実を恐れずに」と励まして下さり、翌年の教区総会で謝罪のお言葉を頂きました。その3年後にはフレッド・ヒルツ首座主教さまもその調査結果を認めて下さり、人種的に多様化しつつある教会を、全国の教区が支援するようにという決議案に署名して頂きました。今後はどのような人種にもこのような事が、起こらないようにと切に祈ります。また、後日機会がありましたら、皆様にこの件についてご報告できれば幸いと存じます。

(カナダ聖公会バンクーバー
聖十字教会信徒、プー
ル学院卒業生)

(前頁よりつづく)

化の速度も異なり、聖書の戒め、主イエスの祈り、教会の伝統と我々の神学的理解に一致が求められるこの時に、その違いがクリスチャンを分裂させようとするのである。21世紀におけるアングリカン・ファミリーは、主イエス・キリストの黙示に忠実である限りにおいて、深い不一致と相互批判に対する寛容な包容力を持たなければならぬ。

エス・キリストの良き知らせを宣べ伝えることができることを切望する。

我々に教皇は存在しない。各教会に我々の権威は分散され、究極的には適正に解釈された聖書の中にそれはある。その光に照らされつつ聖霊の導きのもとに我々が集い、互いに仕え合い愛し合うことに中心を置くことを可能にする方法を探し求め、全てに勝る主イ

現在提案されている会議の日程は2016年1月11日から16日である。カンタベリー大主教はフォーリー大主教、もしくはその代理人も会議の一部に招待する予定である。(なお、フォーリー大主教は同性愛問題に反対し、米国聖公会から離脱した教会群で組織される北米聖公会選出の大主教で、現在はアングリカンの共同体には属していない。)

(Anglican Communion News Service: September 16th, 2015)

(司祭 ヤコブ 松平 功
まつだいら いさお・桃山
学院大学チャプレン)

ある精肉店のはなし
上映会

日時 2015年12月5日(土)
午後2時～

会場 大阪聖パウロ教会
大阪市北区茶屋町2-30

入場無料です

上映後、北出精肉店の次男である
北出 昭さんのお話を伺います。

映画 公式HP
<http://www.seinikuten-eiga.com/>

問合せ先
高槻聖マリヤ教会(古澤秀利司祭)
TEL: 073-683-0200
E-Mail: jfhide@gmail.com

主催: 日本聖公会 大阪教区宣教部社会宣教委員会
共催: 日本聖公会 京都教区宣教局社会部

教区の動き

常置委員会報告

7月24日(第11回定例)

I. 主教報告

*ウイルソン司祭家族は聖ガブリエル教会牧師館に入居された。

*大阪教区教役者黙想会を毎年実施したい意向が示された。

*アングリカン・コミュニオンにおける「宣教の5指標」を聖職・信徒に徹底するよう指示があった。

II. 協議事項

*2016年度大阪教区一般会計予算案、「各教会教区費」「牧会補助金」が示され承認(教区会議案)。

*教役者の引越費用の教区負担についての規定がないため、教区会計規則施行細則2に加えることで承認。

教会・施設の動き

大阪聖三一教会

○8月23日(日) 平和朗読会を行いました。今回で7回目になり、朗読する子ども達も心身ともに成長し、素晴らしい朗読会になりました。子ども達による「さとうきび畑」の1番から11番までの歌詞の朗読と、「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」を5人で読みつなぎ、最後にギター伴奏で、会衆の皆で「さとうきび畑」を歌いました。真の平和を考える良いひと時となりました。

聖贖主教会

○子どもと楽しむコンサート「クリスマスがやって来る」11月28日(土) 13時30分(開場13時) から、2階聖堂で。演奏はアンサンブル・ギリビッツオ(弦・管楽器による室内合奏団)。

聖ルシヤ教会

○恒例の創立記念チャペルコンサートを開催します。11月15日(日) 14時開演(13時30分開場) 入場無料。出演はRJCアカデミー、声楽アンサンブルによる美しい歌声が聖堂に響きます。終演後にティーパーティがあります。

大阪聖パウロ教会

○11月1日諸聖徒日には、磯晴久主教を迎え、10:30より諸聖徒日聖餐式、午後には磯主教ご夫妻歓迎愛餐会、逝去者記念礼拝、秋のミニバザーを行います。

○創立130周年記念感謝クリマス・コンサート「英国姉妹教会ダンモウ聖マリア教会に贈る」を12月20日(日) 14:00より、当教会礼拝堂で行います。当教会聖歌隊セントポールズ・クワイアに

教会信徒のための学び

大阪教区 特別出前・出張講座 「歴史編」

主催：大阪教区 宣教部生涯学習委員会・歴史編集委員会
対象：教会や教区の歴史、キリスト教の歴史に関心のある方、キリスト教について学びを深めたいと願っておられる方
科目：「日本キリスト教史・日本聖公会史・大阪教区史」
費用：今回の費用は無料
講師：西口 忠氏(前桃山学院史料室特別研究員・日本聖公会歴史研究会会長)

第3回：2016年2月6日(土) 午後2時~4時30分
場所：大阪聖パウロ教会
テーマ・内容「英米ミッションの働き」

申込み：申込書に記入して、郵送またはFAXでお申し込みください。締切は、開催の2週間前まで

申込先：千松清美司祭まで。石橋聖トマス教会
〒560-0043 豊中市待兼山町 5-17
電話・FAX 06-6854-8657
E-mail: st.thomas-ishibashi@sunny.ocn.ne.jp

よるクリスマス合唱曲集を中心にチェロ、フルート器楽演奏などを楽しめます。ご来聴ください！

祝受洗

○尼崎聖ステパノ教会
ヒカリ 上村 光 (8月16日)

○東豊中聖ミカエル教会
マーガレット 成岡 眞愛 (9月6日)

○大阪聖アンデレ教会
クララ 中島 純 (9月20日)

祝受按

○尼崎聖ステパノ教会
ヒカリ 上村 光 (8月16日)

○大阪聖アンデレ教会
クララ 中島 純 (9月20日)

魂の平安を祈ります

○大阪聖愛教会
リベカ 樋口 仁子 (7月6日・95歳)

教区関係教役者
逝去者記念聖餐式

◇ 11月11日 (水) 10:30 ~
於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

- 説教者 ジョイ 千松清美司祭
- 1日 司 祭 ジェームズ・ウイリアムス (1920 英)
 - 3日 司 祭 パウロ 山本 早太 (1988)
 - 4日 司 祭 ヨハネ 張本 栄 (チャン・ボンヨン 1966)
 - 宣教師 コンスタンス・メアリー・リチャードソン (1968 英)
 - 5日 司 祭 パウロ 後藤 光敏 (1971)
 - 9日 司 祭 ヨハネ 有近 康男 (1991)
 - 11日 司 祭 ヨハネ 伴 君保 (1956)
 - 12日 宣教師 ドーラ・レイチェル・ハワード (1947 英)
 - 17日 宣教師 ガートルード・E・コックス (1906 英)
 - 19日 司 祭 ヨハネ 側垣 正巳 (1997)
 - 20日 司 祭 ホレイス・ジョージ・ワレン (1950 英)
 - 21日 主 教 ホレイス・H・プライス (1941 英)
 - 22日 司 祭 ベルナルド 小穴 藤雄 (1971)
 - 23日 司 祭 北川 千代吉 (1939)
 - 30日 宣教師 アミー・キャロライン・ボサンケット (1950 英)
 - ?日 宣教師 アンナ・マリア・タブソン (1940 英)

◇ 12月9日 (水) 10:30 ~
於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

- 説教者 フランチェスコ 成岡宏晃執事
- 1日 宣教師 エディス・イライザ・ソープ (1930 英)
 - 2日 主 教 チャイニング・モア・ウイリアムス (1910 米)
 - 4日 司 祭 テモテ 山本 登 (2009)
 - 13日 司 祭 ジョン・キャリー・アンブラー (1946 米)
 - 16日 司 祭 尾形 虎三 (1945)
 - 17日 司 祭 アーサー・ラザフォード・モリス (1912 米)
 - 宣教師 エミリー・ビショップ・ボウルトン (1926 英)
 - 18日 宣教師 ジェーン・キャスパリ (1888 英)
 - 19日 司 祭 ダニエル 小池 虔二 (2014)
 - 22日 伝道師 清田 海一郎 (1904)
 - 司 祭 近重 利澄 (1934)
 - 27日 司 祭 ヘンリー・レナード・ブレビー (1942 英)
 - 28日 伝道師 大塚 惟明 (1928)
 - 29日 司 祭 マルコ 伊墻 八束 (1978)
 - 30日 宣教師 オードリー・M・ヘンティー (1970 英)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前 10 時 30 分から、主教座聖堂 (川口基督教会) で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

- 尼崎聖ステパノ教会 (9月12日・78歳) 浅野 美子
- 川村 清志 (8月14日・85歳)
- 大阪聖ヨハネ教会 (8月20日・102歳) 福士 英
- ナオミ (8月20日・71歳) 信貴 彌生
- パウロ (9月25日・83歳) 小泉 眞一
- 東豊中聖ミカエル教会 (8月29日・86歳) マリア
- プリスカ (9月20日・92歳) 堀内 まり子
- 大阪城南キリスト教会 (9月3日・92歳) ニコデモ
- 中島 和一 (9月22日・82歳)
- 高槻聖マリヤ教会 (8月29日・86歳) 三宅 和子
- 東峰 多壽 (9月20日・92歳)

お詫びと訂正

教区報第444号の掲載記事に以下の誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

- 2頁・4段目(寄稿者名) (誤) フランシスカ 内海理沙子
- (正) フランシスカ 内海理紗子
- 8頁・1段目6行目ウイリソン ン司祭(紹介の生年月日)

編集後記

(誤) 1953年4月15日
(正) 1953年7月15日
12頁・教区関係教役者逝去者記念聖餐式(10月)【脱落】
10月5日 司祭 サムエル 福田光宏

実りの秋を迎えました。教区報第445号をお届けできますことを皆様に感謝します。加療のため第443号、第444号につきましては、辻節子委員 (広報委員長 司祭 ジョージ林 正樹)

現在、紙面刷新と新連載の開始を準備中です。ご期待ください。

また、新メンバーに金山将司聖職候補生を加え体制強化されたことを感謝します。

に委員長代理として、編集業務を代行して頂き、広報委員の皆様の協力で遅延なく発行できましたことを深く感謝します。